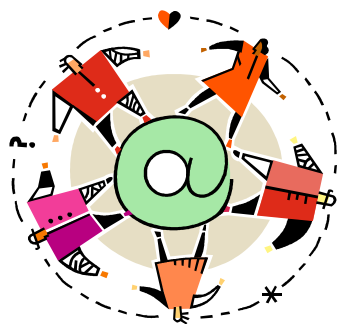


NAGANO ピアサポだより



第6号

発行年月日：2013年4月1日（水）

発行：長野県ピアサポートネットワーク

事務局：長野県長野市若里7-1-7

長野県社会福祉総合センター2階 ポプラの会事務局内

発行責任者：代表 大堀尚美

Tel: 026-228-3344 Fax: 026-224-3777

アドレス：nagano.peer-support@kind.ocn.ne.jp

東日本大震災から2年

2011年3月 東日本大震災、長野県北部で被災された方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。今まで心ばかりですが応急的に経済的、物質的応援をさせて頂きましたが、これからはあらためて「こころ」や「からだ」「生活」の応援を長い期間を見据えながらさせていただきたいと思っております。

昨年御縁があって、おいきあいした、いわき市の社会福祉法人希望の杜（もり）古市さんからお便りを頂きました。



「寄り添ってもらえることのありがたさ」

社会福祉法人 希望の杜福祉会

相談支援専門員 古市貴之（ふるいち たかゆき）さん

全国からのご支援、あたたかい励ましの言葉本当にありがとうございます。

東日本大震災から2年経ちましたが、現在も多くの方が、原発事故の影響により、住み慣れたふるさとから離れて避難生活を送っています。福島県いわき市には、約3500戸の仮設住宅が建設されていますが、慣れ親しんだ自宅や自分の部屋とは勝手の違う環境での生活に、戸惑いや不安を感じている方がとても多いことを感じます。仮設住宅には、一戸建てタイプ、4～5軒が壁一枚でつながっているタイプなど様々ありますが、隣の家の話し声やテレビの音も聞こえてしまう時もありますし、全く知り合いのいないところから近所付き合いなどを始めなくてはならない方もいます。被災前は、仕事をされていた方も「働く意欲がでない」「人間関係が億劫になってしまった」と部屋に閉じこもりがちになってしまった方もいます。現在、原発のあった地域から避難されている方は、精神的損害への賠償として、東京電力から一か月に10万円の補償が受け取れます。震災から2年経った今でも多くの方がその補償を主たる生活費として暮らしています。再就職をしようとして面接に行った方が「避難者は補償金もらえるから無理して働かなくてもいいでしょう」と言われたり、「避難者は働きもせずにパチンコばかりしている」などと心ない言葉を言われることがあったと聞きました。「避難しているという負い目の気持ちから地域の輪に入って行き辛い。周囲に気を使いすぎてしまう。」「外から部屋の中をのぞかれている気がする。」そんな後ろ向きな気持ちになりがちな避難者の方が社会から孤立しないように寄り添っていく存在が今の被災地でとても大事なことだと思います。それは、被災地であってもなくても、障がいがあってもなくても、支援する人される人に関わらずに大事なことだと思います。

先行きの見えない不安の中にいるとき、「それでいいんだよ」と背中を押してもらえ、寄り添ってもらえ、とても気持ちが楽になったことが私自身にもたくさんありました。寄り添う気持ちの大事さを心がけて今後もがんばっていきたいと思います。

秋の講演会・シンポジウム

(予定 2013.4.1.現在)

講師 伊波敏男 (いはとしお) 氏
演題 未定

ハンセン病により過酷な状況から今に至られるまで、差別や偏見によらず、まっすぐに前を向かれる伊波さんにお目にかかって、お人柄に触れ、大変熱い思いを抱きました。

伊波さんのお話しをお聴きし、国による賠償金を奨学金としてフィリピンの地域医療に活かされるお姿にも大変感銘を受けました。

今年秋には、ご講演を頂き、シンポジウムでは、障がいを持って「生活のしづらさ」を持っている私たち当事者によるシンポジウムを開催します。どんな風に生活を向上させているかお互い聴き合いたいと思います。

日程、場所等、詳しい内容は、後日改めてご連絡いたします。

かぎやで風・伊波基金 より

<http://www.kagiyade.com>



伊波基金受給者と懇親
(2011/6/26)



フィリピン国立大学医学部・SHS卒業式
(2011/6/28)

伊波敏男 プロフィール



- 1943年 沖縄県南大東島に生まれる
- 1957年 ハンセン病発病、沖縄愛楽園に隔離収容
- 1960年 沖縄愛楽園を逃走、鹿児島星塚敬愛園に入園
- 1966年 岡山県立邑久高等学校新良田教室卒業
- 1969年 中央労働学院卒業、社会福祉法人東京コロニー入所
- 1993年 東京コロニー・ゼンコロ常務理事就任
- 1995年 退職/執筆活動
- 1997年 「花に逢はん」(発行 日本放送出版協会)
- 1998年 「夏椿、そして」(発行 日本放送出版協会)
・東京都社会福祉功労者賞
・第18回沖縄タイムス出版文化賞
- 2004年 2004年より、信州沖縄塾を主宰し、塾長となる。以降、沖縄の近現代史を基礎から学ぶ特別講座を開講している。
- 2004年 信州沖縄塾塾長
- 2010年 長野大学客員教授就任

詳しくは上記ホームページをご訪問ください。

著書の紹介



ハンセン病を生き抜く(岩波書店)

差別や偏見は、真実を知らないことから生まれる。ハンセン病回復者として若者たちと交流を重ねる中で、著者は真実を知ることの大切さを語ります。14歳で発病、学びたい一心で療養所を逃走、根強く残る偏見や差別に揺さぶられた日々、自らの体験を通してハンセン病問題とは何か、どう生きるかをともに考える一冊です。
※2007年8月21日発売



ゆうなの花の季と(人文書館)

生命の花、勇氣の花。流された涙の彼方に。その花は(はながたみ)の内の一輪一弁にたくわえる人生の無念。沈黙の果てに吐き出す小さき者の声。偏見と差別は、人間としての尊厳を奪い去る。苦悩を生きる人びとが救われるのは、いつの日か。幽(かそ)けき此の人生/感動のヒューマン・ドキュメント!
※2007年5月15日発売



改訂新版 花に逢はん(人文書館)

精神的品位をもって生きるといふこと。強靱な意志を持ち、人びとに支えられ、社会の重い扉を開いていった苦闘の日々。ハンセン病という嵐に翻弄されながらも、確かに生きた半生を静かに紡ぎ出す。
※2007年9月20日発売

アンケート調査へのご協力、ありがとうございます

「長野県障がい者の地域交通網を考える会」よりご報告いたします。「公共交通機関利用状況アンケート調査」へのご協力、誠にありがとうございます。3月15日をもって締め切らせていただきました。全県より、790通ものご回答をいただきました。現在事務局にて、急ピッチで集計作業を進めております。今後の長野電鉄・上田交通・アルピコ交通等との交渉のための大切な資料として活用させていただきます。

JRについては、全国的な運動が必要であることから、「障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会」を中心に、運動実績のある北海道の当事者会などとも連携して、国に訴えて行きたいと考えています。

タクシーについては、運賃割引が陸運局の許認可とも関わるため、直ちに一斉割引をしていただくのは困難と判断、昨年実施した県タクシー協会加盟12社に対するアンケートの集計結果を各社に送付、実質的に割引を実施して下さっている会社に対してはお礼状を添えました。今後の運動の方法をさらに検討いたします。

「考える会」では、今後も息の長い活動を展開して行きたいと考えておりますので、これからも皆様の応援をぜひよろしくお願いいたします。

署名のご協力のお願い

現在、「きょうされん」が請願団体となって、『障害者福祉についての新たな法制に関する請願』のために署名活動を行なっています。本年4月1日に施行された「障害者総合支援法」が、「障害者自立支援法」の継承に過ぎず、当事者の願いが反映されていないことに対して、当事者の思いを国に届けるための請願です。お一人でも多くの方からご賛同のご署名をいただきたいと思っております。長野県ピアサポートネットワーク事務局にも署名用紙がありますので、お声掛け下さい。きょうれんは、どこからの補助金、助成金を受けていません。当事者の声を大切に政策などに訴えていく為です。その運動のための募金も受付していますので、署名・募金共に、ご理解・ご協力をお願いいたします。

自由投稿

地位、お金、名誉について

ひでのり

誰もが、欲しがると三つのものこれらは、人が作り出した。価値観だと思います。地位が上だとか、お金が沢山あるからだとか、自分自身の名誉にこだわって生きていても、人間としての評価にはならないと思います。一人の人間としてどう生きているのかが重要であり余りお金だけが欲しいだけで生きている訳ではないと思います。

全く地位、名誉、お金について感心が無いわけではないのですが。

この三つが全てと思ふ悩む事が、余りにも多い様に感じます。

私が思う人間らしさとは、お互いが助け合い人としての人格を育ててゆく事だと思ふいます。

地位、名誉、お金が有るから、えぼり何事も解決してゆく事ができると誤解されている方がいらっしゃる。残念におもいます。人間らしく思いやりを大切に生きた生き方ができれば好いと思ふいます。



私の好きなこと

山森 浩史

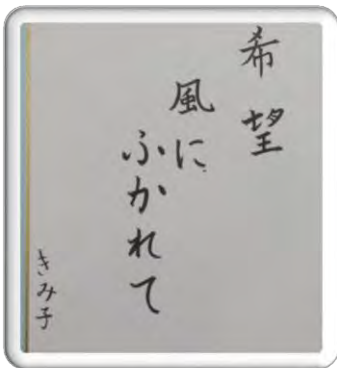
大学時代、書道実技の講義を受けた。その講義を受けることで、普段心の中がザワザワしていることに気付いた。そして、そのザワザワ感が、この講義を受けることで落ち着いていくのに気がついた。

そのことがあり、カルチャーセンターの書道教室に通い始めた。当初は心のザワザワ感を取り除くこともそうでしたが、年賀状を筆字で書いてみたいという目標がありました。

又、講師の先生に家で少し書いてくると上達が早いよと言われましたが、あまり家で練習することはありませんでした。それでも市民書道大会、カルチャーセンター内の展覧会に出品することが励みになり練習量も増えていきました。

そして、この四月から書道教室に通い始めて十四年目になります。

どれだけ続けられるかわかりませんができるだけ続けられればと思っています。



皆さんの自由投稿をお待ちしています。詳しいことは事務局までご連絡ください。 電話 026-228-3344 FAX 026-224-3777

お知らせコーナー

総会・交流会のお知らせとお誘い

日にち： 2013年4月20日（土）

時間

第一部 総会 13:00～13:50（受付 12:30）

2012年事業報告 収支報告

2013年事業計画 予算案 役員紹介他

第二部 交流会

14:10～16:30 交流会

「語り合い友だちの輪を広げよう」

場所：松本中央公民館 M ウィング 3階会議室

松本ICより車で15分 松本駅より徒歩3分

駐車場はコインパーキングをご利用ください。



地図（赤い旗のところです）

《 総会・交流会について 》

総会 会員の方、そうで無い方でも、どなたでもご出席頂ければ幸いです。どんな活動をしているか、どんな内容で皆さんからお預かりした会費を使っているのか。これからの目標、活動予定、予算案、役員さんのご紹介等を行います。

皆さんからのご意見・ご感想・ご質問も頂きますので多くの皆さんのご出席をお待ちしています。

交流会 下記の通り様々なテーマをグループに分かれ自由に話合います。

申込み 出来るだけ事前に事務局までお申し込みください。参加料は無料です。☎ 026-228-3344

「仲間づくりについて」「ゆったりと過ごすには」「働くことについて」「当事者会について」

「病気や障がいを理解してもらうには」「恋愛・結婚について」他（当日参加も可）

《 会員の継続・加入・役員さんのお願い 》

長野県ピアサポートネットワークは、ピアサポート（同じ目標を持った仲間の支え合い）を大切にしていきます。役員さんもピアで、活動していますし、これからピアサポーターの役割もより大切になっていきます。長野県の委員なども務めて、より私たちが暮らしやすい地域を目指して一歩ずつ進みます。

地域で同じ目標を持つ仲間・ご家族・応援・支援して下さる方々と一緒に、学び・交流していきましょう。今年度は助成金等も申請しながら、他の関係機関とも連携しながら、一層会の活動内容が充実し、皆さんの元へ届くように努めます。当事者会員（個人・グループ）・賛助会員として応援ください。

また、一緒に活動を広げて下さる役員さんも随時募集しています。皆さん、是非一緒にピアサポートの輪を広げていきましょう。お問い合わせは1面にある ☎026-228-3344 事務局まで。

雑記帳 桜の季節が来ました。今年は何年ぶり（以前いつか分からない位前）に風邪を引きました。気温差がとても大きいので、心と体がびっくりしたようです。体調の不調が治ると自然にこころも穏やかに過ごせます。春は曙。白く明けていく空を見て、朧月夜に心がくすぐられ、厳しい冬を越えて春になった喜びを素敵な仲間と過ごせること、出合いを心から楽しみにしています。(O)